

# BLUE BLOOD'S

vol.29



**DOJIN**  
**R18**  
成人向け

18歳未満の  
購入・閲覧禁止



**BLUE BLOOD'S** vol.29

こんにちは、BLUE BLOODです。

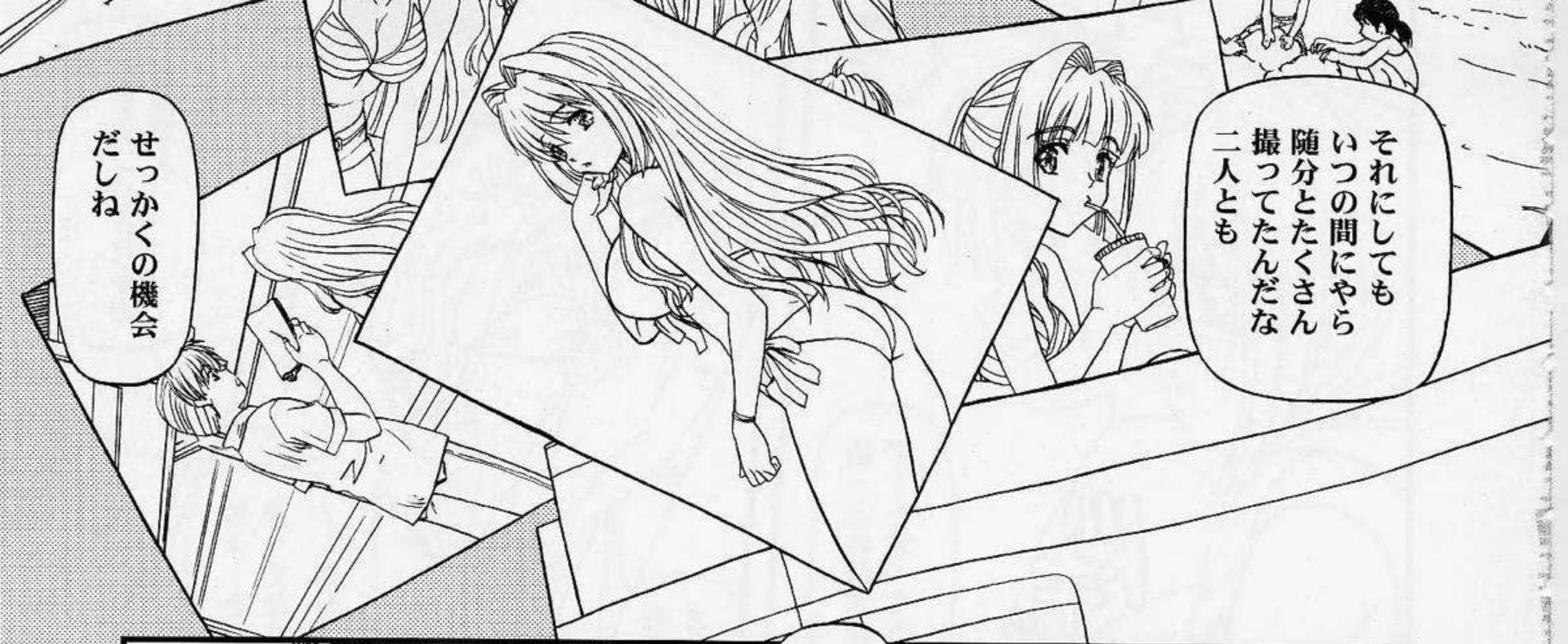
また秋子さん本です。

今回は前回海水浴へ行った後のお話です。

「日焼け跡ってエロいよね」という一心で描きました。

前回の本を読んでない方も、話的には知らなくても問題ないと思います。

大事なのは日焼け跡って事ですから。



それにしても  
いつの間にかやら  
随分とたくさん  
撮ってたんだな  
二人とも

せっかくの機会  
だしね



こういうのは多いに  
越した事ないですよ

それにいい話の  
ネタにもなるし



どれどれ？

相沢君ってば  
自分で言ってるそばから…



まあ確かに「この写真は」って  
盛り上が…ん？  
この写真は？

CONNECT THE ANGLE THAT  
IT IS UNDERSTOOD,  
AND IT IS STOPPED,  
IT WANTS  
WIDE A FLIGHT  
IN A PUZZLE TO PASS  
EVERYTHING ABOUT THE WORLD IS  
NOW COMING TRUE ESPECIALLY FOR ME AND YOU



祐一とお母さんが  
ボート乗ってた間にね



あー  
香里ナンパされ中の  
写真だよ

香里もナンパ  
されてたのか

ちよ…そんなの  
撮ってないでよ!



ボート…



……ん？  
どしたの？

いや……なんでも……

ムムムム  
ゲムムム

ええ……なんでもないわ  
私達を待ってる間に  
そんな事があったのね



秋子さんに言われちゃ  
立つ瀬がないですよ  
迷惑度合いで言ったら  
よほど秋子さんの方が……

迷惑というか……  
困ったのは確か  
断るのって結構  
気を使うでしょ？



香里そういうの  
多いんだよ  
駅前とか遊びに行く  
絶対声かけられるもん

そうか……まあ  
分からなくもないが

香里ちゃん  
美人だものね



いえ  
私はああいうのには  
はつきり言ってるの  
得意ですから♪

……残酷なまでに  
得意だよ  
北川君に対して  
とか

……さすがに  
ナンパしてた連中の  
心の傷がちょっと  
心配になるな

どういう意味よ

だって…なあ？

北川君くらい  
感覚鈍くないと…ねえ



名雪…あんたも  
大概ひどい…

あ  
ちよつと  
ごめんなさい

今頃慌てても自業自得でしょ  
だから毎日少しずつでも  
やっておきなさいとあれほど……

そもそも自分でやらなきゃ  
意味ないでしょ宿題なんて

もう…まずは自分で  
頑張ってみなさい  
それでもどうしても  
分からない所があったら  
教えてあげ……

分からない所だらけ？

もしもし……葉？  
どうしたのよ

……は？  
夏休みの宿題？

名雪……  
あなたまさか……

……夏休みだからって  
毎日半日も寝てりや  
なあ……昼間は部活も  
やってたし

ゆ……祐……  
宿題は……？

……そりやまあ一応は  
終わらせてるけどさ

本当!?  
じゃあ見せ……

基礎科目はともかく  
選択科目は見せようがないだろ  
結構別々に履修してたし

……!!

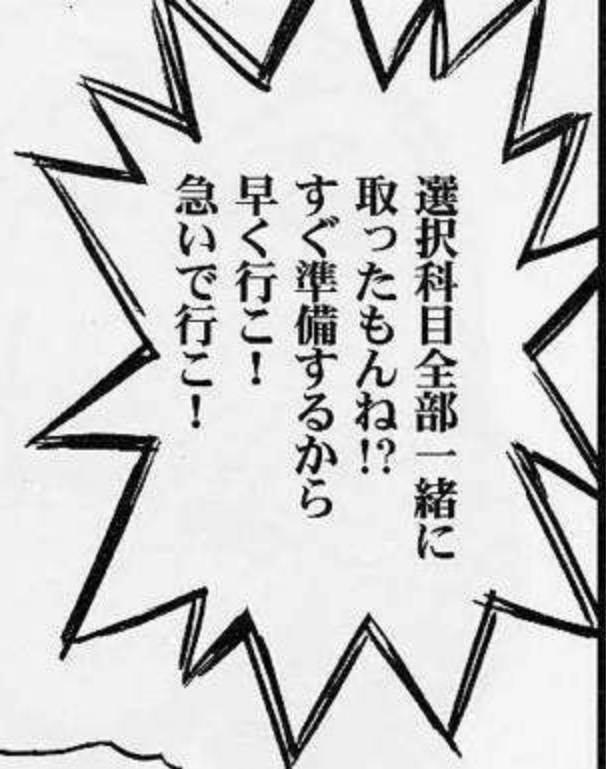




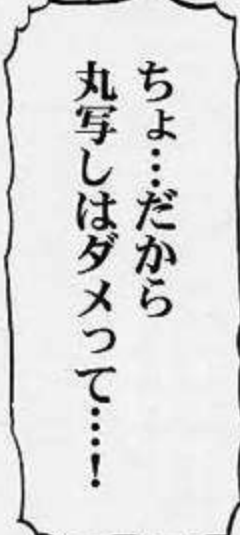


ああもう……！  
それじゃ秋子さん  
お邪魔しまし……

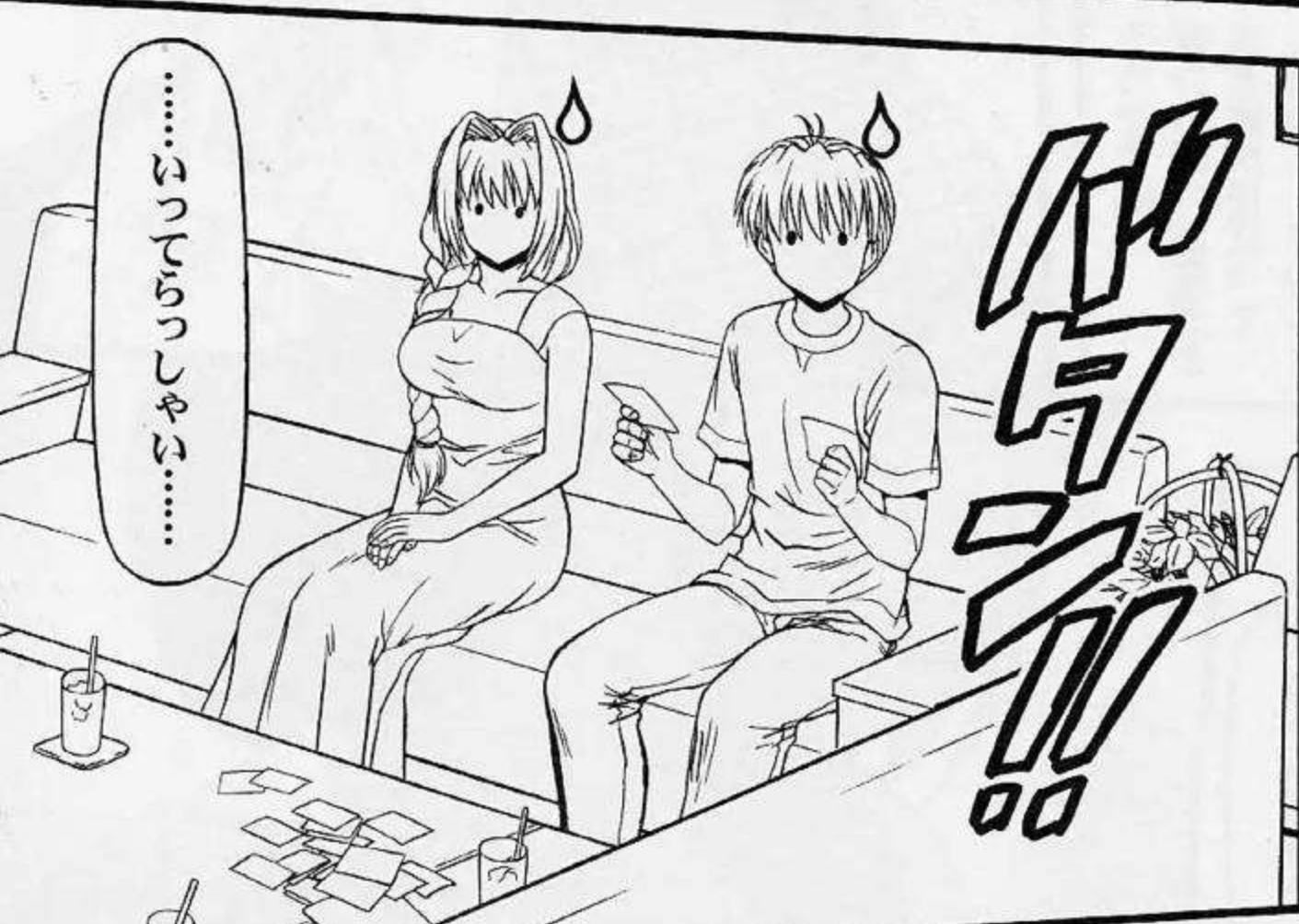
行ってきまーす！



選択科目全部一緒に  
取ったもんね!?  
すぐ準備するから  
早く行こ！  
急いで行こ！

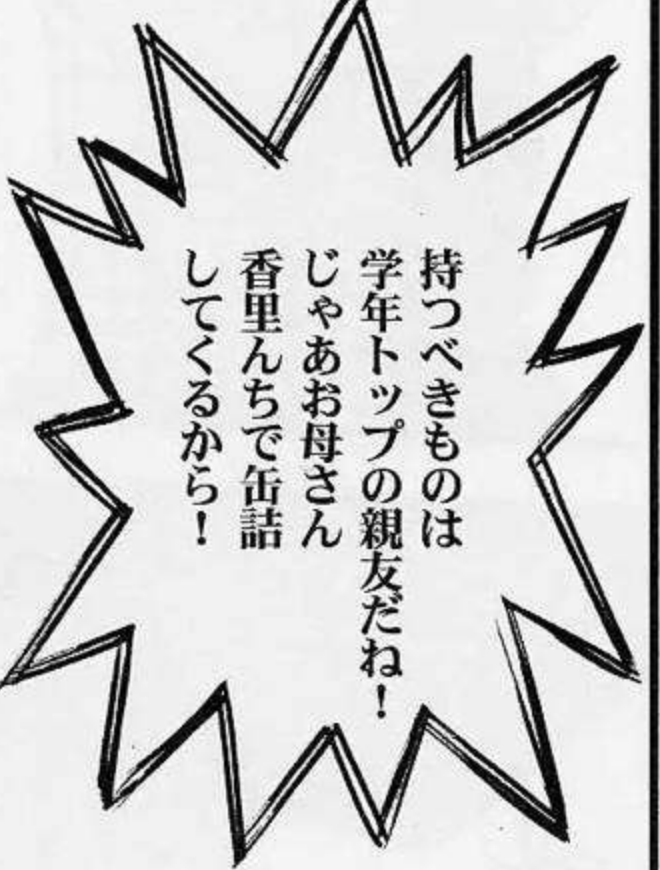


ちよ……だから  
丸写しはダメって……！



御身

……さっさとさっさと……



持つべきものは  
学年トップの親友だね！  
じゃあお母さん  
香里んちで缶詰  
してくるから！



まああれだけ力いっぱい  
遊んだツケなら名雪も  
本望でしょう



くすつ……後で  
香里ちゃんのお母さんに  
お詫びとお願いの  
電話をしておかないと

……たく……  
しようがないな  
名雪は

それにしても……

アッ

ANGLE THAT UNDERSTOOD, IT IS STOPPED, & IT WANTS A FLIGHT

こうして見ると  
日焼け具合が改めて  
分かりますね



そうですね  
肩口の開いた服だと  
水着跡が目立って  
しまつて……少し  
恥ずかしいです

……

アッ

祐一さん？

いえ……水着跡つて……



とっも色っぽい  
思ひますよ

あっ……

そういうえはこっちは……

ゆ……祐一さん……  
ダメ……



水着跡……もっと  
見たいです……

残念  
キスマークの方は  
消えちゃいましたね

ああ……

で……でも……  
こんな所で……っ

それとも日焼けで  
見えづらくなってる  
だけかな？

ちゅっ

それじゃ……

秋子さんの部屋なら  
いいですか……？

ん……♡  
ちゅ……あ……♡

はう……ん……♡



それにほら……

っっっ



ああ……  
隠してたはずの所が  
逆に強調されて……

すいへんさあはこさす



ふああっ……♡

日焼けした肌の照り返しで  
逆に肌の艶やかさが増して  
見えて……

スルッ

や…そんな……  
いやらしいだなんて……



ん……!

さあ……

それは  
祐一さんだつて……



すごく興奮します

さあ……



濃くなった陰影が  
しなやかな筋肉を  
際立たせて……



アッ  
アッ



あ……  
秋子さん……

遅しさを……  
祐一さんという『男』を  
訴えかけてくる……



アッ



私という『女』を……  
疼かせてくる……



れろおっ

んむ…ん…  
ちゅ…ちゅ…♡♡

ちゅろっ

祐一さん…♡



すごく気持ち  
いいです……っ！

ああっ…！  
秋子さん…  
いいっ……

んっんっ♡

あはは

あはは

あはは





んあっ……♡♡  
嬉しい……♡♡

ムニョ

もっと……もっと  
気持ち良くなつて  
ください……♡

ムニョ



くうっ……すごい……  
秋子さんの大きくて  
柔らかい胸が……  
俺を包み込んで……!!

ああっ……  
日焼けした肌がいつもより  
さらに熱を帯びてるように  
感じて……すっく……

ムニョ



あん……祐一さんの……  
こんなに大きく  
硬くなって……♡

ムニョ



ムニョ

ムニョ



あき……♡  
ゆいひひちゃん……♡

ウロウロ

ウロウロ



だっ……だめですっ！  
そんなイタズラ  
しちゃ……

ウロウロ

ウロウロ



秋子さん……っ！

ひゃうミン♡



ゴゴゴ



あッあッ♡  
だめ……ちからが  
抜けちゃう……♡

やあッ♡  
そんなにされたら  
私……また……♡

ガクガク



秋子さんのも……  
こんなに硬くなってますよ

ピュピュ

だめッ…♡  
だめえッ♡

あッ…♡  
あッ…♡

や…そんな  
恥ずかしい言い方…  
祐一さん意地悪です…

ふふ…  
秋子さんの方が先に  
射精しちゃいましたね

すみません  
だって秋子さんが  
可愛くて大好きだから

こんな風に……  
歯止めが利かなくなつて  
しまうんです

あ……んっ……♡

こんな俺……  
嫌いですか？

アッ

アッ  
アッ  
アッ

ほう……  
そんな言い方……  
ずるいです……

んっ♡

んっ♡

んっ♡

……大好きです……♡

や…そんなに  
吸…ッ♡

はあッ…♡  
飲まれてる…  
祐一さんに…  
私のミルク…ッ♡

ゴクゴク

ゴクゴク

んはっ…飲むたびに  
秋子さんの中が  
キュウキュウと  
締め付けて…

んむ…  
ちゅっ…

ちゅっ  
ちゅっ  
ちゅっ

ゴクゴク

とてもじつとなんて  
してられません…

んめめめ♡

♡♡♡♡♡

お…奥…ツ♡  
中が祐一さんで  
いっぱいに…♡

コ  
コ  
コ

あああッ♡

た  
た  
た

た  
た  
た

コ  
コ  
コ

コ  
コ  
コ

ハ  
ハ  
ハ

だめッ♡  
そんな深いところ  
まで…だめえッ♡

どうしてダメなんですか？  
俺はもっと深く秋子さん  
繋がりたいのに…！！

ハ  
ハ  
ハ

ハ  
ハ  
ハ

やッあんッ♡

だって…だって…  
祐一さんにこんなに  
激しく求められたら…  
こんなに深く愛されたら…

気持ちよすぎて…  
幸せすぎて…  
おかしくなっちゃう…♡

……ッ！

そっ…そんな事  
言われたら…

あッ…

んはははは♡

俺の方がおかしく  
なっちゃいます…ッ！



秋子さん…!



嬉しくて…  
秋子さんをもっと  
感じさせたくて…

あッああッ♡



あひいッ♡



あんッああん♡

興奮と欲望が  
抑えられない…ッ!

あッ…いっ♡





ふぁッふぁッ♡

激しい…ッ♡  
こんな…ッ…♡  
あぁッ♡



秋子さん…!!  
俺…もう…!!

ひあああッ♡  
祐一さん♡  
私も…私もおッ♡

祐一さあん♡

アッ

アッ

アッ

イェッ♡  
イェッ♡





びん...

あ...熱いの...  
いっぱい...♡

びん...

びん...

びん...

びん...



はあ...

はあ...

はあ...

びん...



祐一...さん...?



んん...♡



秋子さん...  
ん...ちゅ...

あ...や...♡

祐一さんの…一度出したというのにまだこんなに硬いままです…♡

日焼けした秋子さんに…夏の思い出にもっと浸ってほしいんです…ダメですか？

そうなる今日二人きりで…誰に気兼ねする必要もなくて…

あつ…奥…そんなに優しく突いちゃ…♡

んふっ…♡でも名雪がいつ帰ってくるか…

クワッ

そう考えたら俺…我慢なんて…!

私の中を押し広げて…私を求めている…♡

もっと…ずっと…一日中でも秋子さんとこうしていたい…っ!

一回だけじゃ足りないって…もっともっと私を貪りたいって…

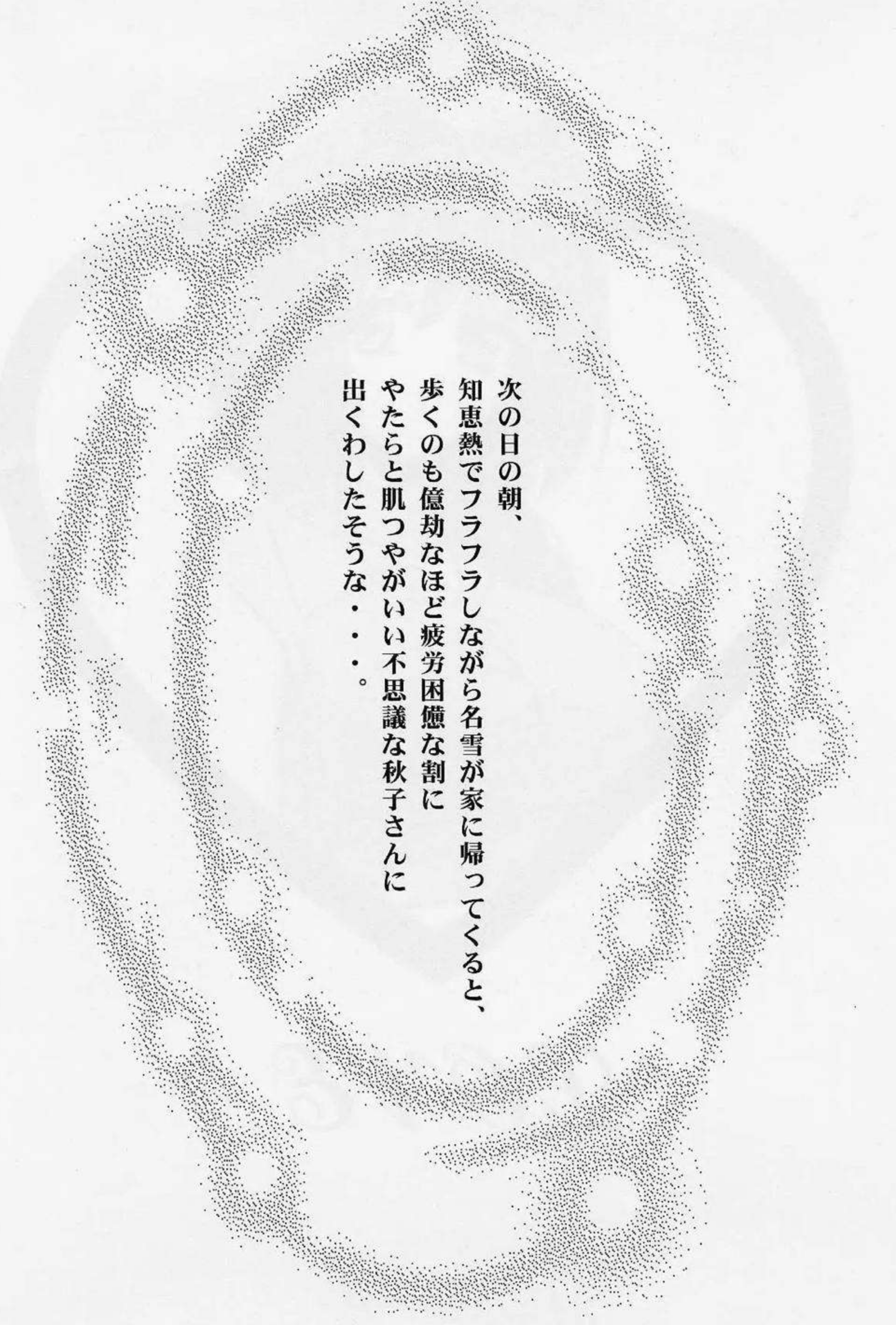
こんなにも私に…欲情…してる…っ♡

一日中…っ♡

ダメ…ですか…?



…了承…です…♡



次の日の朝、  
知恵熱でフラフラしながら名雪が家に帰ってくると、  
歩くのも億劫なほど疲労困憊な割に  
やたらと肌つやがいい不思議な秋子さんに  
出くわしたそうなの。。。



*LOVE*

えー・・・すみません。また進行が滅茶苦茶になって、  
中途半端な仕上がりのものになってしまいました。  
コレはひとえに僕の頑張りが足りなかったのが原因なのですが、  
元から調子の良くなかったPCだけならまだしも、  
締め切り直前でタブレットが全部使えなくなったのも  
小さくない原因だと思います。

この機を計ったような嫌がらせは、もはや機械帝国の反乱と  
言ってもいいでしょう。

やむにやまれず真夜中に作家友達の綾野なおとさんちに押しかけて  
PCを液晶タブレットと一緒に借りて作業を続行し、何とか  
このくらいまでに・・・

綾野さんマジ助かりました。

惜しむらくは、タブレットの復旧に早々に見切りをつけて  
さっさと綾野さんを頼ればよかったですね。

そうすればあの貴重な6時間が・・・っ。

いずれにしても次の作業開始までにPCの方を何とかしないと  
いけませんね。

ところでどうでもいい話ですが、なんか僕が描いてる祐一って  
回を重ねるごとにスケコマシ度が上がっていったような・・・。

嫉妬マンの癖に！

じゃじゃじゃじゃあ、また次の本で。



<発行者>

BLUE BLOOD

<発行日>

2012年4月30日

<印刷所>

(株) 高山 様

<URL>

<http://www.fsinet.or.jp/~b-blood/>

<e-mail>

b-blood@fsinet.or.jp

インターネット環境を含む

無断転載・無断複製

及び

18歳未満の購入・閲覧

を禁ず



**DOJIN**  
**R18**  
成人向け

18歳未満の  
購入・閲覧禁止